1	名古屋	冨士中学校	ナカムラ　ワタル 名前　中　村　航

分科会番号	3	分科会名	社会科教育(中学校)

研究題目

自らの興味・関心を基に、他者と共に学ぶことができる社会科学習

研究要項

1　研究のねらい

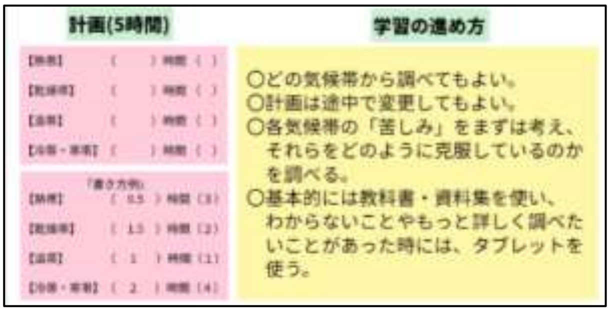
現代社会は、新型コロナウイルスの感染拡大や国際紛争など予測困難な時代となっており、与えられた課題を解決することに終始したり、一人の力のみで解決したりするだけでは、未来を生き抜く力は身に付けられないと考える。そこで、自ら課題を発見し、仲間と協働しながら解決へ向かっていく力が必要であると考える。中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、「各学校においては、教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。」と述べられている。しかし、これまでの私の授業を振り返ってみると、１時間の中で全員が同じことを行い、調べたことを書き写すだけの授業が何度かあった。それでは、生徒一人ひとりの興味や関心、学習進度を考慮することができないという問題点があり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することができない。そこで、私は「個別最適な学び」とは生徒が自らの興味・関心を基に学習課題を追究することと考える。そして、「協働的な学び」とは他者と共に学ぶことと考える。

以上のことから、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、自らの興味・関心を基に、他者と共に学ぶことができる社会科学習を実現したいと考えた。

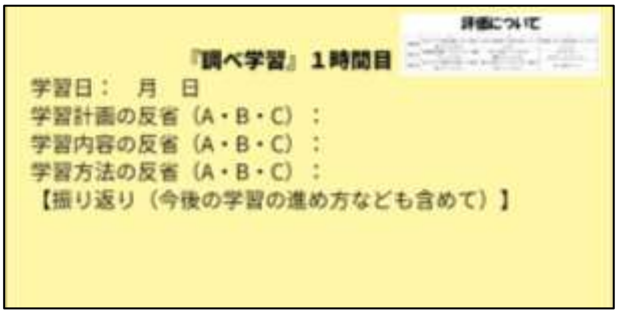
2　研究の手立て

(1) 自ら学習を調整するための学習方法の工夫

生徒が自らの興味・関心を基に、学習課題を追究していけるようにするために、学習計画を立てる【資料１】。学習計画を立てることで、興味をもった気候帯に多くの時間を掛けるなど、学習時間の配分を自分で決めてから学習に取り組むことができるようにする。また、毎時間、自分の学習計画を自己評価するようにし、自らの学びを調整できるようにする【資料２】。



【資料１　学習計画シート】



【資料２　振り返りシート】

(2) 自分にはない視点や考え方に気付くための学習活動の工夫

他者と共に学ぶことができるようにするために、他者と意見を共有できる時間を設ける。各気候帯を調べる段階では、クラスの誰とでもどの場所でも調べてよい状態にする。そうすることで、疑問に思ったことなどを他者に聞くことができるようになると考える。また、共有する段階では、それまでに調べた内容をまとめ、小グループで意見交換をする。そうすることで、自分にはない視点や考え方に気付くことができるようになると考える。

3　実践計画

(1) 単元

地理的分野「世界の人々の生活と環境」

(2) 指導計画（８時間完了）

①　学習計画を立てる　・・・２時間　②　学習計画に沿って調べる　・・・５時間

③　グループで意見を共有する・・・１時間

(3) 学習段階

目指す生徒像に迫るため、学習過程を「見通しをもつ」「調べる」「共有する」の３段階に分け、以下のように実践の中に位置づける。

段階名	内容
見通しをもつ	学習課題を追究するために必要な気候帯ごとの時間配分を決める。
調べる	「熱帯」「乾燥帯」「温帯」「冷帯・寒帯」について、自分の学習計画を基に調べる。
共有する	各気候帯の生活上の「苦しみ」を一番うまく克服している気候帯を選び、３人もしくは４人グループで意見を共有する。

(4) 単元計画

段階	時間	主な学習内容	指導上の留意点
見通しをもつ	2	○　熱帯や乾燥帯などの気候の特徴について学び、過酷な環境の写真を見て、学習課題を捉える。	○　吹雪や砂漠などの過酷な環境の写真を見せることで、その地域になぜ人が住み続けているのかという問いをもつことができるようにする。
		学習課題「それでもなぜ、人はそこに住み続けるのか。」	
		○　どのような時間配分で各気候帯を調べていくのか、学習計画を立てる。	○　学習計画を立てることで、単元の学習の見通しをもたせるようにする。
調べる	5	○　自分の学習計画を基に各気候帯の衣食住などについて調べる。	○　各気候帯で暮らす人々の「苦しみ」と克服の仕方を調べることで、その気候帯で暮らす人々の自然との関わり方についてまとめられるようにする。 ○　机間指導を行い、自分ではなかなか調べることができない生徒の活動を補助する。
		○　授業の終わりに、自分の学習計画を見直す。	○　学習計画を見直すことで、次時の学習を調整できるようにする。

共有する	1	○　各気候帯の生活上の「苦しみ」を一番うまく克服している気候帯を選び、３人もしくは４人グループで意見交換をする。 ○　学習課題についてもう一度考え、ワークシートに記述する。	○　違う意見をもつ生徒と話し合わせることで、自分にはない視点や考え方に気付くことができるようにする。 ○　学習課題についてもう一度問い掛け、人間の生活はどの地域でもその地域の自然に影響されることに気付けるようにする。

4　実践の様子

(1) 見通しをもつ段階（第１・２時）

第１時で、世界の気候の違いは何によって生まれているのかを学び、熱帯・乾燥帯の気候の特徴を分布図や雨温図を確認しながら学習した。

第２時では、各気候帯で暮らす人々の「苦しみ」が分かる写真を見た。その後、学習課題「それでもなぜ、人はそこに住み続けるのか」を提示し、人々が自然環境をどのように克服したり、利用したりして生活しているのかについて関心を高めた。そして、各気候帯の特徴を調べた上で、興味をもった気候帯には多くの時間をかけてもよいことや、どの気候帯から調べてもよいことなどの声を掛けた後、次回の授業以降の学習計画を立てた。学習計画を立てる際には、「乾燥帯に興味があるから、乾燥帯は２時間調べようかな」などと話す様子が見られた。

第１時、２時を通して、生徒は世界各地の気候の特徴を知ることで、これから調べていく気候帯について興味が湧いている様子であった。そして、興味をひかれた気候帯については時間をかけるなど、自由に時間配分を決める活動を通して、単元の学習の見通しをもてるようになった。

(2) 調べる段階（第３～７時）

第３～７時では、熱帯、乾燥帯、温帯、冷帯・寒帯の各気候帯の特徴を学習者用タブレットで調べた。その際、【資料３】の学習シートを基に、各気候帯で生活していく上で「苦しみ」になることを現地で暮らす人々はどのように克服しているのかという視点で行った。冷帯・寒帯では、雪がたくさん降り積もるという「苦しみ」を、アイスホッケーをして楽しむことで克服していたり、乾燥帯では、水があまり取れないという「苦しみ」を灌漑設備の使用で克服していたりするという記述が見られた。また、クラスの誰とでもどこでも調べてよい状態にした。クラスの友達と複数人で勉強していく生徒や、一人で黙々と進めていく生徒が見られた【資料４】。一人で学習する生徒も、第４時、５時になると、他の生徒に自分の考えについて意見を聞きに行く様子が見られた。生徒Ａは、【資料５】の記述のように、毎回の授業で自らの学習について振り返りを行い、その反省を次の授業に生かそうと記述することができていた。

【資料３　調べ学習シート】

【資料４　調べ学習をする生徒】

今回の学習の進め方で、３０分ぐらいと計画していましたが予想以上に時間がかかってしまったので次回はもう少し時間をみながら、調節してできるようにしたいです。

今回の学習の進め方でおおむね計画通りに進められて、前回よりも良く進んだと思います。ですが、まだ最後まで終わるか怪しいので次回は温帯を１時間ぐらいで調べ終わるように先に苦しみを考えておくようにするなどと工夫したいです。

【資料５　生徒Ａの調べ学習１時間目の振り返り（左）と２時間目の振り返り（右）一部抜粋】

第７時には、各気候帯の苦しみを現地の人々がどのように克服しているのかをロイロノートにまとめた。生徒Ａは、【資料６】に書かれているように、冷帯・寒帯の気候の特徴を理解しつつ、動物から得たものを残さず使うなどして克服しているとまとめた。また、白夜と観光など、その地域の気候を生かした良さについても触れることができていた。これは、毎回の授業で学習計画の反省をし、学習を調整することができているからだと考えられる。

〈冷帯・寒帯のまとめ〉
冷帯・寒帯の地域では寒さが厳しいなどの特徴がありました。その地域ではイグルーという住居がつくられたり、動物の毛皮を加工した衣服など動物から得たものを残さず使ったりなどと克服していることが分かりました。夏に気温が高くなる地域では夏に農業や狩猟などをおこなっていることもわかりました。また、高緯度の地域では「白夜」という太陽が1日中沈まない現象がおこり、夜にはオーロラが見られることもあり観賞するために訪れる人がいるという良さもわかりました。

【資料６　生徒Ａの冷帯・寒帯のまとめ】

調べ学習を行っていく中で、最後の１時間を迎える前にすべての気候帯について調べ終わる生徒がクラスに数人いた。調べ終わった生徒Ｂは、【資料７】に書かれているように、まだ終わっていない生徒と協力をし、他者に教えることで新たな発見をしていた。

- 今日は最初から終わっていたので友達の手助けをすることができて良かったです。
- 友達の手伝いをすることで自分も学ぶものがあったので勉強になって良かったです。

【資料７　生徒Ｂの調べ学習５時間目の振り返り】

第３～７時の調べる段階では、毎回の授業の終わりに自らの学習計画・内容・方法について【資料８】の表を基に、自己評価を行った。その結果、【資料９】を見ると、調べる段階の１時間目と５時間目を比較した際に、Ａの評価をした人数が５時間目にはどの項目でも高くなっていることが分かる。実際に振り返りの記述を見ると、【資料５】のように毎授業の自らの学習を反省し、改善することができている生徒が多くいた。

	A	B	C
学習計画	自分が立てた計画を調整しながら学習を進めることができた。	おおむね計画通りに学習を進めることができた。	計画通りに全く学習を進めることができなかった。
学習内容	学習課題の結論につながるくらいに理解することができた。	調べた内容についておおむね理解することができた。	調べはしたが、何がわかったかわからない。
学習方法	自分に合った学習方法で集中して学習を進めることができた。	集中が途切れることもあったが、学習を進めることができた。	あまり進まなかった。

【資料８　学習計画・内容・方法の評価項目】

	A		B		C	
	１時間目	５時間目	１時間目	５時間目	１時間目	５時間目
学習計画	１２人	２０人	１６人	１０人	３人	１人
学習内容	１４人	２０人	１５人	１０人	２人	１人
学習方法	１４人	２１人	１４人	９人	３人	１人

【資料９　あるクラスの調べる段階１時間目と５時間目の学習計画・内容・方法の自己評価】

第３～７時を通して、生徒はクラスの友人と共に学びながら、世界各地の気候帯について知識を深めることができていた。【資料７】にあるように、早く終わった生徒がまだ終わっていない生徒に教えたり、自分で調べたものを他の生徒に聞きに行って確かめたりする様子が見られた。また、毎回の授業で学習計画の振り返りを行ったことで、自分の学習進度を把握することができ、次の授業で自分が何をすべきか明確になっていた。

(3) 共有する段階（第８時）

第８時では、５時間の調べ学習を踏まえて、どの気候帯が一番うまくその地域の苦しみを克服しているのかを考えた。まずは一人で考え、その後近くの席で３人もしくは４人グループを作り、意見交換をした。意見交換は２回行い、話し合いを踏まえて意見を修正し、最後には学習課題に対する最終的な自分の考えを書いた。

どの気候帯が一番うまくその地域の苦しみを克服しているのかについて、話し合う前に生徒Ｂは【資料１０】のように記述している。この記述を見ると、生徒Ｂはその地域にしかないものをそこに住む人たちがうまく利用したり、工夫したりして生活していることに気付くことができている。これは、生徒に調べ学習をさせる際に、各気候帯の気候やそこに住む人たちの生活の特徴をただ調べさせるのではなく、「苦しみ」という表現を用いて調べ学習を行った効果であると考える。

- 雪などをうまく生かした遊びやスポーツを生み出しているので、他の気候帯に比べて－を＋に変えることができていると思ったから。
- 生かすだけではなくそれに対応するための衣服や建物をそこに住んでいる人たちだけの工夫で生み出しているのがすごいと思った。
- 冷帯・寒帯ではオーロラが自然に見れたり、白夜を生かしたイベントがあるのも面白いと思った。

【資料１０　生徒Ｂの共有する段階の記述】

生徒Ｃと生徒Ｄは共有する段階において、【資料１１】にあるように互いの意見を聞いて、考えを変えたり、考えを深めたりすることができていた。生徒Ｄは、自分にはなかった新しい視点で気候帯について考えることができていた。

【話し合った後】
（　乾燥　　）帯
「理由」
私は最初の考えと変わりました。話し合ったDさんの言葉の「一番人間らしいと思いました」」という言葉でなるほど、たしかになと思い、意見が変わりました。乾燥帯は自力で工夫しながら生きているので、すごいなと思いました。

【話し合った後】
（乾燥）帯
「理由」
変わらなかった。でも、新しい意見を取り入れて考えることができた。
C さんの意見は特に、環境問題など今重要視されている問題を取り入れていたのですごいと思った。

【資料１１　生徒Ｃ(左)と生徒Ｄ(右)の共有する段階での記述】

第８時の最後には、学習課題に対する最終的な考えについて書いた。ここで、生徒Ｅが単元の２時間目に書いた学習課題に対する予想と８時間目に書いた学習課題に対する最終的な考えについて比較する【資料１２】。２時間目に書いた予想では、具体的な内容はあまりなかったが、８時間目に書いた最終的な考えでは、先祖が住んでいたから自分も住み続けるという単純な内容ではなく、暑さや寒さ、乾燥などの苦しみがあるが、その地域でしか取れない特産品やできないスポーツ、イベントなどからそれらの苦しみを乗り越えるための何かを自分たちで作っていると記述している。５時間の調べ学習と話合いを通して、生徒Ｅは世界には様々な気候があり、現地に住む人はそれに対策していること、そして、人間の生活が「苦しみ」に耐えているだけではなく、その「苦しみ」を逆に利用して生活し、その「苦しみ」に勝る喜びを得ていることに気付くことができていた。

- ご先祖様が代々住んでいた土地だから
- そこでの暮らしに慣れてしまったから
- 「俺はこんなすごいところに住んでいるんだぞ」と自慢できるから

【最終的な自分の考え】
この学習を終えて、自分は世界には全然違う気候であるのだなあ、と思った。熱帯では暑さを逃がす服を着、寒帯ではあったかさを逃がさない服をきるなどの工夫もしていた。地球の中だけでこんなにも違う。これまででいろいろなことを学んだと思う。この学習では、世界にはいろいろな気候があり、そしてそれにいろいろ対策している人がいることが分かった。
どの地域でも苦しみもあり、生活の苦しいところがたくさんあると思う。しかし、熱い、寒い、雨が降らない、とても乾燥している…
それらの様々な苦しみに勝る喜び、その地域でしかできない・取れない特産品、娯楽、スポーツ、イベント…そんなものなどがその地域で人を住み続けさせる物があると思う。それらが、それらの苦しみを乗り越えるための何かをその人たちが自分で作っている。

【資料１２　生徒Ｅの学習課題に対する予想（上）と最終的な考え（下）一部抜粋】

第８時では、様々な人と意見を共有することで、新たな視点や考え方に気付くことができていた。実際に自分の意見を変えたり、変えなくても意見を深めたりする様子が見られた。また、学習課題に対する最終的な考えを書く場面では、多くの生徒が２時間目に書いた予想よりも具体的に考えを書くことができていた。

5　実践のまとめ（○・・・成果　●・・・課題）

○　それぞれの気候帯を５時間で順番を自由に調べるようにしたことで、生徒が興味のある気候帯に時間を掛けたり、興味のある気候帯から調べ始めたりすることができていた。また、学習計画を毎回見直すことで、単元全体を見通すことができるようになり、今後の学習の進め方を修正し、自ら学習を調整することができていた。

○　調べる段階で、誰とでもどの場所でも調べてよい状態にしたことで、自分が得た知識をすぐに他者と確認したり、他者から自分にはない情報を得たりすることができていた。また、最後の共有する段階では、小グループで意見交換したことで、５時間で調べきれなかったこと、自分では思い浮かばなかった視点や考え方に気付くことができていた。

●　毎回の授業の最後に振り返りの時間をつくり、学習計画や学習方法の自己評価を行ったが、生徒の自己評価と記述を確認し、気になった点をクラス全体に教員から口頭で共有することに留まり、生徒一人ひとりの記述に対するフィードバックを行うことができなかった。そのため、生徒一人ひとりへのフィードバックの方法を考えていきたい。

●　調べる段階と共有する段階を通して、意見交換を行うことはできたが、小グループでの意見交換に留まってしまったので、クラス全体で意見を共有する時間を設けたい。

6　今後に向けて

本実践では、自分で学習計画を立て、学習を調整しながら学習課題を追究した。そして、話し合うことを通して、生徒は自らの興味・関心を基に、他者と共に学ぶことができた。今後は生徒が自ら十分な仮説や問いを立て、その問いについて考え、他者と共に学習していくことができる社会科学習を実現していきたい。